

# 民児協おかやま

岡山市



第46号

平成31年4月1日



## 濟世

現在では日本全国に広く普及している点字ブロックはみなさまがご存じの通り、岡山市が発祥の地となっています。開発者の三宅精一氏が友人の失明をきっかけに昭和40年（1965年）に発案・発明し、昭和42年（1967年）3月18日、岡山県立岡山盲学校に近い旧国道2号の原尾島交差点横断歩道周辺に計230枚が世界で初めて敷設されました。その後、歩道・鉄道駅・公共施設、商店の出入り口付近、横断歩道の手前、車道の横断歩道部分などに広まってきました。現在では150カ国以上の国で設置されており、日本だけでなく海外の人々にとってもなくてはならないものとなっています。今回の表紙となっている写真は岡山盲学校の近くにある「点字ブロック発祥の地」の石碑で、当時の点字ブロックが埋め込まれています。石碑にある文章の通り点字ブロックは色や形を変えながらも、暗礁を恐れぬ希望の眼となり岡山市から世界へ、命の道しるべを未来に向かって示し続けています。

岡山市民生委員児童委員協議会 事務局

## 平成三十年度 第八十七回 全国民生委員児童委員大会

広報委員（可知地区民児協）  
宗政富美男

「メンソール」の熱烈コールに迎えられ、第八十七回全国民生委員児童委員大会が、九月二十七・二十八日に沖縄県那覇市に於いて開催されました。

オープニングでは琉球芸能団「うりずん」が、沖縄の風景や人々の生活を表現した郷土色豊かな歌と踊りを披露してくれました。

前半の式典終了後、「世界制覇への道」と題して、沖縄劉衛空手古武道龍鳳会、佐久本嗣男会長の特別講義がありました。

昭和二十二年生まれの佐久本氏は、自ら世界空手道選手権大会で七連覇、指導者としても同世界大会女子団体優勝、個人でも喜友名諒を優勝に導いています。

このように功成った氏の影には、偉大な母の存在がありました。小学校の運動会のことです。かけっこで負けるのが悔しくて登校を嫌がっていると、泡盛酒でふくらは

ぎを拭いて足を軽くしてくれたり、スタートでは必ず内側を確保し追い抜かれそうになったら右腕を大きく振ったりする等、様々な必殺技を伝授され見事勝利を収めたそうです。

現在、指導者として活躍している氏は、その心構えとして、「常に礼に始まり礼に終わる。相手を思いやる心を大切に。師弟の関係はあれど上下関係は存在しない」等、力を込めて語られました。

続いて芸道の三域すなわち、「鍛錬の域、術の域、最後に到達するのが美をも感じさせる芸の域」について述べられました。

師の教えを守り、一年三百六十五日休まず鍛錬を積む喜友名諒氏の演武は、このことを見事に体現したものでした。

それまでの和やかな雰囲気が一変、会場は水を打ったように静まり返り、全身から放たれる声と気迫、その一挙手一投足に目は釘付けとなったのです。

師弟は二年後の東京オリンピックでの金メダルを目指し、更なる修練を積むことを力強く宣言して講義を終えられました。

常に物事に真剣に向き合う氏の姿から、私たち民生委員児童委員としての持つべき心構えを学ばせていただきました。

最後に、来年度の開催地である福島での再会を約して、大会は幕を閉じました。

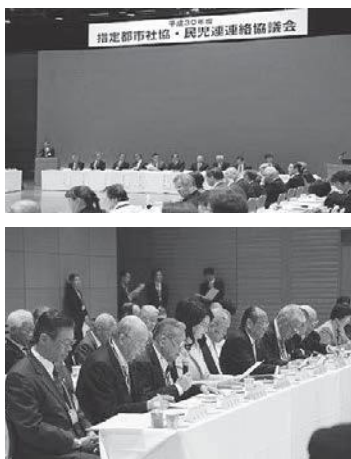
※なお、二日目予定の「活動交流集会・シンポジウム」は、台風二四号の沖縄直撃により中止となりました。



## 平成三十年度 指定都市 社協・民児連 連絡協議会

十月二十九・三十日に岡山コンベンションセンターにて岡山市社協・民児協主催の指定都市社協・民児連連絡協議会が開催されました。

今回は岡山市での初めての開催と



いうことで市社協と市民児協とで協力して準備を行いました。

大会当日は、市民児協の常任理事の方々にも会場案内や分科会への参加等ご協力いただき、無事大会を終えることができました。

大会一日目は、厚生労働省社会・援護局地域福祉課玉置隼人地域福祉専門官の「地域共生社会の実現に向けた地域福祉推進施策の現状と課題」についての講義や各分科会、情報交換会が行われ、活発な意見交換が繰り広げられました。一日目は、全体会で各分科会の報告とオリエント博物館、笠井知事銅像等の視察が行われました。

二日間を通して各関係者の方々の多大なご協力の上、参加者の皆様に岡山市の魅力を十二分に伝えられた素晴らしい大会となりました。

# 平成三十年度 岡山市民生委員・ 児童委員大会

十月三十一日、岡山市民会館にて、市内全域の民生委員・児童委員が一堂に会して、平成三十年度岡山市民生委員・児童委員大会を開催しました。

笠井祥司岡山市民生委員児童委員協議会副会長による開会宣言、国歌斉唱、小銭純宏岡山市民生委員児童委員協議会副会長による民生委員信条朗読、物故者への黙祷が開会として行われた後、式典が始まりました。はじめに、岸本俊男岡山市民生委員児童委員協議会会長が式辞において、大正六年に当時の笠井信一岡山県知事によって民生委員制度の源と言われる濟世顧問制度が創設され、昨年に百周年という大きな節目を迎えた今、子どもの貧困や急激な少子高齢化など様々な課題に直面している中、先人のご活躍を励みに、社会福祉を支える柱として日々の活動に

取り組んでいく決意を述べられました。

続く主催者あいさつ及び来賓祝辞では、大森雅夫岡山市長、内田通子岡山市社会福祉協議会会長、得能金市全国民生委員児童委員連合会会長、永見勝岡山市民生委員推薦委員長が、地域福祉における日々の民生委員・児童委員活動への感謝や期待を述べられました。

また、永年にわたり、民生委員・児童委員活動に尽くされた十名の方々が表彰されました。



## 表彰受賞者（順不同・敬称略）

### ●岡山市長感謝状

内山下地区	辻	正子
清輝地区	内山	久暉
旭竜地区	八代	武利
太伯地区	根本	一江
浦安地区	森上	綾子

### ●岡山市民生委員児童委員協議会会長表彰（永年勤続）

深柢地区	野田みよ子
清輝地区	戸田 多栄
竜之口地区	谷口 恵子
内山下地区	松井 聰
鹿田地区	上池由紀子

続いて、高山学岡山市民生委員児童委員協議会副会長が大会宣言を読み、満場の拍手で承認されました。

## 大会宣言

岡山市内全ての民生委員・児童委員は、民生委員制度の源で地域福祉のさががけとなった「濟世顧問制度」発祥の地としての誇りを持って次のように宣言します。

一、地域福祉のさががけである岡山の地にこれからもその花を咲かせ続け、誰もが住みやすさを感じられる地域共生社会づくりに取り組めます。

一、民生委員信条と先人が志した済生の心を胸に、地域住民に分け隔てなく寄り添いながら、その相談に応じます。

一、地域住民同士のつながりを生か

し、幅広い関係機関・団体と連携し、地域住民の笑顔あふれる地域作りに努めます。

一、困難を抱える人たちが、あるいは、未来を担う子どもたちやその親たちへ、温かなまなざしを注ぎながら、自立を援助し、介護・子育て世代を応援します。

一、民生委員・児童委員制度の発展とともに、自らも地域社会の一員として成長していくことで、支え合いの輪を広げます。

## 記念講演

記念講演では、「子供の貧困とは何か」つながることから支援まで」と題して、川崎医療福祉大学の直島克樹先生に、子どもの貧困の現状と、その支援や地域のつながりの重要性についてお話しいただきました。



## 一人も見逃さない運動 高島地区の取り組み

高島地区民生委員児童委員協議会

松下 茂

高島地区民児協は、「災害時一人も見逃さない運動」を一層推進するために、補助金を活用し、平成三十年・三十一年の二年間活動することになりました。

平成三十年は、豪雨や台風のために、西日本は甚大な被害を受けました。高島地区でも、初めて避難勧告が出されました。幸いにも大きな被害を受けることはありませんでしたが、今後も自然災害による被害がないとは言いきれません。

そこで、地域の防災意識の向上と被害を最小限度に食い止めるために、防災訓練を岡山市危機管理室や中消防署等の行政機関、高島学区連合町内会、消防団等々のご協力をいただきながら実施することになりました。

内容は、

- (一) 土嚢づくり・土嚢積み体験
- (二) 応急処置体験（心肺蘇生・AED）
- (三) 担架づくり体験

- (四) 非常食の試食
- また、実施後の参加者アンケートでは、

・ 今回の防災訓練は役に立った  
(九十七%)

・ 定期的な防災訓練が必要である  
(九十六%)

といった回答を得ることができました。この結果を踏まえながら、地域住民同士の結び付きや助け合い活動が深まるように、今後の活動を考えていきたいと思えます。



## 豪雨災害の記憶

上道地区民生委員児童委員協議会

小川 慧

中永 雪枝

七月七日午前二時頃一本の電話で目を覚ましました。

「ちよつと外を見てみいや。」

外を見てビックリしました。

町内会長は、水が腰以上ある中を集会所まで来て、住民に対して、

「砂川の堤防が決壊しましたので、二階建て家屋の住民は早く二階に避難するように！」と拡声器で放送されました。平屋の住民は、部屋の飯台の上で約二時間半ずっと何もせずに座っていました。

午前四時半頃、消防隊の方四人にゴムボートで来てもらいましたが、「ここから西には水量が多くて行けない」と言って国道二百五十号南古都交差点まで運んでもらい、御休小學校まで避難しました。

そこでは御休連合町内会の人達に大変お世話になりました。避難所での炊き出しは無論のこと、被災した町内会にまで、炊き出しをして頂き本当にありがたいと思いました。テレ

ビの映像でボランティアの方々の活動を見ていましたが、実際に自分の身に起きて経験してみると、本当に有難さが身にしみました。

七月九日頃より、町内の地区同士で助け合い、炎天下の中、畳・家具・家電等を協力し空き地に運び出ししました。また、道路に5cm位溜ったヘドロは臭くて大変でしたがポンプで洗い流し、宅内のヘドロも掻き出しました。

自動車が全家庭で使用する事が出来なくなり移動が非常に困難になりました。

避難所としていた平島小学校の体育館も浸水し、今も使用する目途もたっていません。卒業式には使用できようにはお願いしたいです。

この災害で犠牲者が出なかったのが一番の救いですが、本当に困った時の助け合い、ご近所との絆を見る事ができたと思います。

町内では、被災から六ヶ月が過ぎてもまだ、大工さんも入られていない家屋が多く見られます。

一日も早く復旧できますよう皆様のご支援をお願いいたします。

# 地域福祉推進部 創設七周年 記念事業を実施して

地域福祉推進部

部長 寶藏 史朗

平成三十年七月七日の豪雨による河川堤防の決壊等の水害により岡山市東区平島地区、北区御津地区をはじめ各地において広域にわたり甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には衷心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧復興をお祈りいたします。

さて、岡山市民児協地域福祉推進部は、平成二十九年度に七周年を迎え、今後の一層の推進のためにも記念事業の実施にむけて当部常任委員会において協議してまいりました。

記念事業として岡山市内の福祉の先駆者と民生委員制度の発展に関する講演会と創設以来七年間の主な活動記録集を作成して全部員および各地区民児協会長に提供することと計画しました。

平成三十年九月七日、山陽新聞社さん太ホールにおいて岡山市民児協

地域福祉推進部創設七周年記念講演会を部員及び地区民児協会長、民生委員・児童委員、主任児童委員の出席を頂き開催しました。

記念講演会は開会あいさつ後、民生委員児童委員信条を全員で朗読しました。

次に、岡山市民児協岸本会長からご挨拶を頂きました。

岸本会長は部創設の経緯と部及び部員の果たすべき役割そして具体的方策や部ボランティア活動の旭川荘児童院の奉仕活動の継続推進などのお話をしてくださいました。

続いて、部創設から平成三十年度上半期までの主な活動について部長から概要説明をいたしました。

特に当部は創設以来事業方針や部員の位置付けなど十分に明確にすべき点もあり、これが課題の解決のため民生委員・児童委員にとって今後役立つであろうテーマや内容などを研究し進めることにより地域福祉推進部として福祉区、地区民児協の活動に参考となる事業や情報の提供に努めること、また部員が一步一步進んで取り組めるように常に理解を深め推進役や相談支援役となれるよう

努めたいと考えております。

部員は一日にして成長できるものではありません。地区民児協会長をはじめ民生委員・児童委員皆様のご支援とご協力をいただけますようお願いいたします。

次に司会者から講演演題及び講師の紹介がありました。

## 記念講演

演題 「おかやま福祉のあゆみと  
民生委員制度 ～ 濟世顧問  
制度を中心に～」

講師 新見公立短期大学地域福祉学科教授  
山本 浩史先生

山本先生のお話は、近・現代日本福祉史についてでした。岡山県では明治期に石井十次（岡山孤児院）、留岡幸助、山室軍平等の篤志家による事業、大正期に民生委員の前身の濟世顧問制度が創設され、その後、この制度は濟世委員、方面委員と全国制度に発展し、民生委員となり現在に至っており、濟世顧問・委員制度は顧問・委員として個別的活動をする民生委員制度となり、顧問・委員が中心に創立した団体は社会福祉事業や地域互助組織に変遷してきているとのことでした。

岡山県で創

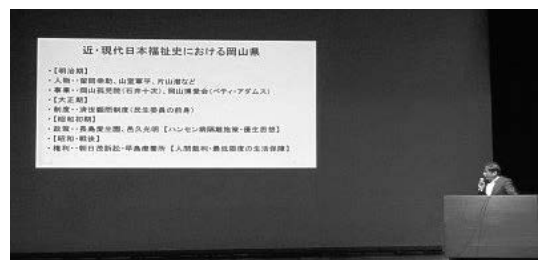
設された濟世顧問制度についてのお話に続き、濟世顧問濟世委員を

中心とする主な社会事業施設についてこれらの施設は現在も継続して事業活動していることもお話されました。

また、七月に岡山県に甚大な被害をもたらした西日本豪雨災害の被災地の岡山市東区にボランティアや相談支援調査に向いたことについてもお話されました。

最後に閉会のあいさつを行い記念講演会を終了しました。

今回の講演では民生委員の成立以前から現在までの変遷と社会の変革について山本先生が分かりやすくお話くださり、とてもありがたき感謝いたします。皆様に今回の記念講演がお役に立てれば幸いです。



# 福祉区民児協の紹介

福祉区の取り組み  
1

## 中区福祉区の取り組み

中区福祉区民生委員児童委員協議会

会長 高山 学

平成が終わりを告げる頃には島根西部地震、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、そして晴れの国岡山も被災地となった西日本豪雨などが起き、自然災害の脅威を痛感した一年となりました。この経験から全国的に防災意識が高まり、多くの人が自助共助の大切さを再認識したことでしよう。そのため、福祉マップの作成や災害対応力の向上など地域全体を巻き込んで日頃の備えしておくことはとても大切であると痛感しております。

中区福祉区民生委員児童委員協議会（以下、中区民児協）は、十三の小学校区の地区民児協で構成されており、六福祉区の中では最も面積が狭く人口密度の高い地区です。中区民児協は、理事会において活動内容の検討を行い総会にて審議し、その年の活動内容が決定します。主な活

動として、年二回の全体研修会、視察研修、広報誌の発行、理事研修、地域福祉推進部の活動・主任児童委員部の活動があります。まず総会で決算報告・事業報告・次年度の予算・事業計画の審議・承認を得て一年が始まります。全体研修会では、民生委員・児童委員の活動をするうえで介護保険について知っておきたいということ、介護保険について講演していただきました。視察研修では、地震大国日本といわれているように、いつ起きるのかわからない自然災害について、常日頃から防災意識を備えるため、ひめじ防災プラザ及び消防指令センターにて研修を行いました。

また、理事研修では、鳥取県境港市民生委員児童委員協議会の委員と防災についての情報交換を行いました。地域福祉推進部は、二十二名で活動しており、研修会を年二回、視察研修を一回行っています。高齢者問題を学ぶため、認知症に先進的

な取り組みをしている笠岡市認知症カフェやケアマネジャーの方に事例を踏まえた講演や望ましい対応の仕方について教えていただきました。主任児童委員部は、二十五名で活動しており、研修会を二回、視察研修を一回行っています。保健センターや地域こども相談センター、各々の地区担当者同士で地区の状況を多方向から収集し意見交換を実施しています。

また、オレンジリボンキャンペーンでは、毎年十月の最後の日曜日に行われる岡山ふれあいまつりに参加し、虐待防止のPRを行っています。中区民児協では、平成二十八年度より全国的な社会問題となっている少子高齢化や児童虐待など民生委員・児童委員に寄せられる期待と課題への取り組みの一端をお伝えする「中区民生委員児童委員だより」を年一回発行しています。A3サイズの両面カラーで約五千部印刷し、各関係機関・町内会にて回覧等を行っています。発行をすることで地域の皆様にも地域福祉に関心を持っていただき、民児協の活動のふりかえりから次期活動の目標にも活かせるものと

なっています。

我が国では、社会保障などの分野の枠を超えて地域全体が連携し、地域の様々な資源を活かしながら取り組むことで、人々の暮らしにも地域社会にも豊かさを生み出します。これが「我が事・丸ごと」の地域づくりを育む仕組みへと転換していく改革が必要な背景であります。地域共生社会の実現に向け、我々の活動も改革に取り組む時期になってきています。多くの困難な問題をどのように解決したらよいか、地域の皆様と「支え合い・助け合い」住みよい地域をつくっていききたいと思えます。



## 福祉の取り組み

# 南区西福祉区の取り組み

南区西福祉区民生委員児童委員協議会

会長 小銭 純宏

南区西福祉区は「妹尾」「興除」「藤田」「灘崎」「福田」の五単位民児協で構成されています。

当地域は全国屈指の新田開発や干拓の歴史があり、岡山市の農業の中心をなす穀倉地帯を担っていました。しかし近年、後継者不足等で、急速に宅地開発が続き、耕地の減少や他地域からの転入による人口増加の傾向がみられます。ここ数年来、このような地域の社会情勢の変化や



その他  
の福祉  
に関わ  
る問題  
が多岐  
にわた  
り顕在  
化して  
きてい  
ます。

私達は「まちの福祉の担い手」「身近な相談相手、見守り役」として、地域住民の支援に役立てたいと願い、西福祉区合同の全体研修会を開催しています。

全体研修の内容は地域福祉推進部の提案をもとに、会長をはじめ全委員の協力により実施されます。過去四年間の研修内容は、「ハンセン病問題から学ぶ」長島愛生園、「中高年のための運動」岡山市立せのお病院、「フードバンク岡山の食糧支援・生活困窮者支援について」NPO法人フードバンク岡山、「老いを輝く」岡山プライマリケア学会、「済世の心を未来へつなげて」岡山県民児協となっております。毎回ほぼ全員が出席し、会場は各単位民児協オリジナルのカラフルなジャンパーで埋めつくされ、活気に溢れます。

どの研修会もテーマの本質を深く掘り下げた内容が聞け、民生委員・児童委員としての関わり方の示唆もあり充実感のあるものでした。また、

講師への質疑が毎回大変活発で、熱心な課題追求の姿がみられ、互いを高め合う有意義な会になっていきます。休み時間等も他地区との情報交換の大切な場となっているようです。

さらに、オレンジリボン啓発活動として「オレンジリボンキャンペーン」も合同の全体研修と位置付けています。

平成二十七年度の妹尾小学校での開催を出発点とし、西福祉区管内の小学校で「二十八年度箕島小学校」「二十九年度曾根小学校」「三十年年度福田小学校」と順次、開催しています。

オレンジリボンの作成では、会場の児童、教職員、全委員等の混合の班に分かれ、リボン作りをおし「児童虐待防止」に関する意識を高めています。作成中は児童と委員の会話ははずみ、和やかな交流の場となっています。また、主任児童委員によるオレンジリボン作りの説明や絵本の読み聞かせなど、毎年、主任児童委員部の細やかな配慮により、楽しい雰囲気なかで研修しています。

このように「人権問題」「高齢者問題」「貧困問題」「民生委員の基本理念」「児童虐待防止」等に関わるテーマを取り上げ、全委員で研鑽を積んでいます。

研修で得た知識は課題解決への即効性はなくても、問題に直面した際、より広い視点から向き合っていく姿勢につながるものと考えられます。

今後も様々な問題を抱えている人びとに寄り添い、「民生委員・児童委員はこのまちに笑顔を広げます。」のキャッチフレーズの実現をめざし「全体研修」に取り組んでいきたいと思えます。



## わたしの趣味

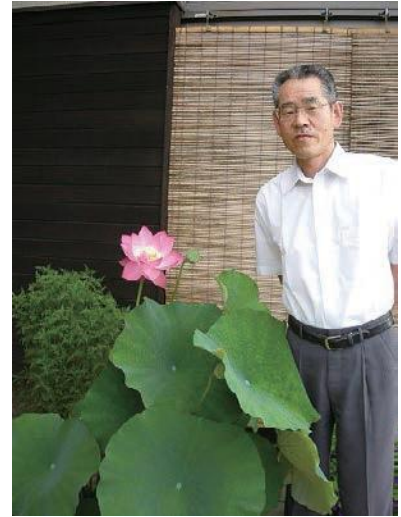
大賀蓮との出会いは今から20年前で、足守の方が作っておられた蓮根を分けていただきました。現在、我が家の庭には鉢が7つあり、毎年桜の咲く前後に植え替えをします。

6月になると米粒くらいのつぼみが水面から顔を出し始め、それが少しずつ膨らんで7月になると開花します。

### ～大賀蓮～



おおがはす (別名: 古代蓮)



可知地区民児協  
宗政 富美男



いつてんしかい (別名: 大名蓮)



しんによれん  
真如蓮

◆委員より◆ 「わたしの趣味」を募集します。写真・絵・工芸・俳句・川柳など自薦他薦は問いません。

事務局までご連絡ください。

事務局 (福祉援護課内) ☎086-803-1218

### 編集後記

昨年を表せば「災」、大変な年でもありました。本年はより穏やかな年であるよう願う次第であります。「民児協おかやま」第四十六号をお届け致します。今号は、表紙に点字ブロック記念碑を紹介し、全国大会を初め岡山市民児協として取り組んできました大会、研修又地区民児協の活動紹介、わたしの趣味等、平成最後の本号を飾って頂きました。

大変ご多忙の中にも関わらず、ご寄稿を頂きました皆様方にお礼申し上げます。

終わりに、本年は改選の年にあたります。地域の幸せを願い最後まで精一杯のご活躍なさいますこと、ご期待致しまして編集後記とさせていただきます。

戸田 元宣 記